

△秋田縣和田油田地形及地質圖(油田第二十三區) 二萬五千

分一村山賢二調査商工省 昭和三年五月 七二錢(丸藤)

△秋田縣神宮寺油田地形及地質圖(油田第二十四區) 三萬

分一村山賢二調査商工省 昭和三年五月 七二錢(丸藤)

○都市問題 第八卷第三號 三月

六大都市既往人口の推算(齋藤一)

○*Economic Geology*. Vol. XXIV No. 1. 1929.

The Origin of the Manchurian Magnetic Deposits.

(T. Karo)

○*Zeitschrift für Vulkanologie*. Bd. XI. Hf. 4. Nov.

1928.

Bericht über die jüngste Tätigkeit der Kamtschatka-

Vulkane. (H. Reck)

◎大日本地誌大系 第一卷 御府内備考 一 雄山閣 三月

◎Comparative Vocabulary of the Western Eskimo

Dialects. By D. James. (Report of the Canadian

Arctic Expedition 1913—18. Vol. XV. Eskimo

Language and Technology. Part A.) Ohtaiya. Dec.

1928.

○上部白堊紀マンモナイトのサイフォンクルに就きて(清水三

郎) 齋藤報恩會事業年報第四 昭和四年三月

○地震 第一卷第三號 三月

激震帯の長期移動に就いて(宮部直巳)

潮汐の負荷に因る地殻の傾斜運動(高橋龍太郎)

文化七年の男鹿寒風山地震に就いて(今村明恒)

地震に對して武装せられたる町村と武装なき町村(今村明恒)

○*Proceedings of the Imperial Academy*, Tokyo. Vol.

V. No. 1. Jan. 1929.

Some interesting geological features observed on

the Median line of Southwest Japan. (M. Morishita)

Fossil Chelonian (?) eggs from South Manchuria.

(H. Yabe and K. Ozaki)

○科學畫報 第一二卷第三號 三月

花綵のやうな日本列島はどうして出来たか(高橋純一)

有史以前の關東地方(關東山地)とその變遷(脇水鐵五郎)

有史以前の東北地方とその變遷(渡邊萬次郎)

有史以前の北海道とその變遷(北村詮次郎)

有史以前の瀬戸内海と琵琶湖(網島定治)

富士火山帯の成因(本間不二男)

九州島の成因と其變遷(淺井治平)

琉球列島の成因とその變遷(武見芳一)

太平洋に出没する幽靈島ノマルモンの不思議(渡邊千里)

雜報

○揚子江の三角洲

上海大學のG・P・クレンツェー博士

が支那雜誌で上海四近の地質を述べたる所によると、揚子江

の運搬する浮游土砂の量は著しく多量である。揚子江委員會

及黃埔江河川局の多年の觀測によると其の量は約一箇年に四億噸であるがこれには河底に沿うて轉流する物料及河水に溶解せる物質は含まれて居ない。若しミシシッピ河の場合に於ける浮游土砂と上記の物質との割合を此にも宛嵌めると前記の量になほ二億噸を加ふべきである。然し現時の負荷量で過去に於ける川の營力の大きさを計ることは出来ぬ。これは開墾及從而森林の荒廢される以前には陸面の浸蝕により遲緩であつたからである。堆積の行はるゝと共に三角洲は多分沈降したと思へる。爲めに非戸を割つた結果によると堆積層の厚さは平均千呎以上に達する。堆積地域は約二萬五千方哩に及ぶ故三角洲の全容量は少くとも五千立方哩になる。堆積の速力が常に一樣であつたとすればこの堆積には六萬年かゝつたことになるが實際にはもつと永くかゝつた事で、其の最初の堆積は第三紀中にあつたかも知れない。現時三角洲の海へ進出すること六十年に約一哩であると計算されたが、これには河底に沿うて轉流する物質及沈降の影響を考へに入れて居ないのである。平坦な三角洲中には此處彼處に孤立した丘陵があつて、中生代の火成岩によつて貫かれた古生層の岩類から主に構成されてある。舟山列島の丘陵も亦同じ岩類から成立つて居る。三角洲堆積物の下底には丘陵及溪谷を有する過去の地形があることは明かである。クレツセー博士は上海地方の此の過去の地史を明にせんとして居る。(Geogr. Journ. に據る)

○仁科三潮及日光五色沼の泥土中の鑛物

田中阿歌磨先生の採集せられた表題の湖水の泥土に就き、檢鏡する機會を得た。泥土の中には鑛物の量少く一%にも満たず且つ大粒のものを見出すに困難である故、泥土を重液により多少淘汰して比較的大粒のものを含める泥土を檢鏡した。泥土は非晶質有色で硅藻類の多數の遺骸を交へて居る。鑛物は各湖により多少の相違はあるが、大小不同、形も種々の碎片狀玻璃多く、長石、輝石、綠泥石、黑雲母、石英等である。長石は大粒のものでは、分解せる部分多く、僅かに縁邊部で識別せられるものもあれば、また細粒なれども極めて新鮮なる劈開片も見られる。輝石は分解せる部分あるも長石の如くは著しくなく、小粒なれども柱狀結晶をなすものには端面の見られるものも少くない。黑雲母は其數少く、綠泥石は他鑛物の分解生成物として不規則なる塊狀をなしてある。石英は五色沼のものに殊に多く見出される。他の湖底には稀である以下各湖に就き多量のものより順次に列擧して見れば

一、木崎湖二八米底(灰色細粒泥土)

鏡下に淡褐色稀に黑色の非晶質物を含む。

玻璃 〇、八耗以下

長石 〇、三耗以下、斜長石、アルカリ長石(光軸角小屈折率低し)

輝石 〇、五耗以下

綠泥石 〇、八耗以下

黑雲母 ○、七糎以下

二、中綱湖一二米底(帶褐灰色細粒泥土)

鏡下に淡綠灰色の非晶質物稀に黑色のものを交ふ。

玻 璃 一、〇糎以下

長 石 一、四糎以下、斜長石、アルカリ長石、

(極めて新鮮なるものを交へアルカリ長石を多く含むこと第一なり)

輝 石 ○、四糎以下

綠泥石 二、〇糎以下

石 英 一、三糎以下

黑雲母 ○、四糎以下

三、青木湖五六米底(灰色細粒泥土)

鏡下に淡黃褐色の非晶質物に黑色のものを交ふ。

玻 璃 一、二糎以下

長 石 ○、七糎以下、斜長石、アルカリ長石。

綠泥石 一、〇糎以下

輝 石 ○、五糎以下

石 英 一、一糎以下

四、五色沼三米底(帶褐黄色細粒の泥土に○、五糎以下の鞍山岩粒を交ふ)

(鏡下に淡褐黄色の非晶質物に黑色のものを混す)

玻 璃 ○、七糎以下

輝 石 ○、五糎以下

石 英 一、〇糎以下

長 石 二、〇糎以下、斜長石(極めて稀にアルカリ

長石を混す)

〇、六糎以下

鞍山岩粒

五、五色沼五米底(帶褐黄色細粒泥土)

(鏡下に淡褐色の非晶質物に黑色のものを交ふ)

玻 璃 ○、七糎以下

長 石 ○、五糎以下、斜長石

英 石 ○、二糎以下

綠泥石 ○、五糎以下

黑雲母 ○、五糎以下

鞍山岩粒 四、〇糎以下

○世界の棉花

一九二六年度米棉に未曾有の收入あり、爲めに市價の下落著しかりしが、その量一千九百十三萬五千

俵にして(一俵五百封度)戦前一千七百萬俵のレコードを破

りたる也、然るに一九二七年には一千三百七十三萬三千俵に

して一九二〇年來なき貧弱なる收穫となれり、これ實に相場

の下落したる結果なりとす。猶一九二七―八年度世界市場出

現高は

米 棉 一四、三七三、〇〇〇俵

印 度 四、四七五、〇〇〇俵

埃 及 一、二〇〇、〇〇〇俵

合 計 二三、七九八、〇〇〇俵

これは前年度の二七、八二二、〇〇〇俵よりも著しき減少な

(君塚)

り、近年歐洲諸國は夫々自己の植民地に棉花の栽培を爲すに至り、年々收穫増加あり、英領印度以外の地にては三四七、九五六俵を産し特にスーダンの十二萬七千俵、ウガンダの十三萬五千俵を著明なりとすべく、佛領にも八、八五七噸、白領コンゴにも一五、〇〇〇噸を産せり、かくて一九二七年度の世界棉消費高は二千五百萬俵にして、收穫に超過せること百二十萬俵に上れり。一九二八年七月三十一日現在の繰越高は一〇、一二一、一八一俵なりといふ。

今世界の紡績錘數をのぶれば左の如し。

	一九一八年	一九二八年
英國	五七、〇〇〇、〇〇〇	五七、三一六、〇〇〇
他歐洲	四三、二〇〇、〇〇〇	四七、七六八、〇〇〇
北米	一九、五〇〇、〇〇〇	一七、〇三二、〇〇〇
南米	一四、三六九、〇〇〇	一八、五一〇、〇〇〇
印度	六、六五三、〇〇〇	八、七〇三、〇〇〇
日本、支那	三、〇七五、四三五	六、二七二、〇〇〇
埃及	一、五四〇、〇〇〇	三、五〇四、〇〇〇
カナダ	一、三六七、九一一	一、一五四、〇〇〇
メキシコ	一、五六二、一四九	五、〇二四、〇〇〇
合計	一四八、二六八、九〇五	一六五、一〇三、〇〇〇

過去十年間に約千七百萬の増加なるが北米、南米及極東の一大進歩を認む、新錘は舊錘よりも能率大にして、假令は日本は一日二十時間の運轉可能なるも印度にては僅に一日十時

間とす。

○中等學校地理科設備品最低標準案(二)

乙 通論之部 (續き)

陸界地理之部

(一) 標本

イ、地質時代ヲ代表スル岩石類

(岩石類別表)

始原層	三	一・一〇〇	三・六〇〇	朝鮮ノ片麻岩 ヲトル
三波川層	一〇	一・〇〇〇	一〇・〇〇〇	主トシテ内地 産ヲトル
古生層	三〇	一・〇〇〇	一〇・〇〇〇	同
中生層	三〇	一・〇〇〇	一〇・〇〇〇	同
第三紀層	三〇	一・〇〇〇	一〇・〇〇〇	同

(洪積層沖積層ハ常ニ實見シ得ルガ故ニ省ク)

ロ、内の營力ニヨリ變化ヲ現ハス岩石

(イ)ノ欄ニ記セルモノヲ利用シテヨシ

動力變質ヲ受ケタルモノ	三	一・〇〇〇	〇・〇〇〇	主トシテ内地 産ヲトル
接觸變質ヲ受ケタルモノ	五	一・〇〇〇	〇・〇〇〇	同
褶曲ヲ受ケタルモノ	三	一・〇〇〇	三・〇〇〇	同
ハ、外的營力ニ受ケタル岩石				
建設作用ヲ示スモノ	三	一・〇〇〇	三・〇〇〇	
A 化學的沈澱岩				

B 器械の堆積ニ

ヨル岩石

10 1,000 10,000

陸上、海水中

ルモノヲ使用ス)

臨界地合計貳百八拾貳圓六拾錢也

A 氷河ノ堆石

ニ 5,000 10,000

島津拔 (アルプス産)

水界地理之部

B 其ノ他

10 1,000 10,000

其ノ他

掛圖類

ニ、噴出物及ヒ沈澱物標本

火山噴出物(標本)

一組 10,000 10,000

島津

潮沙

1,000 1,000 大阪集書堂

温泉沈澱物(標本)

一組 5,000 5,000

同

海嘯

1,000 1,000 同

(三) 模型

造山力説明(模型)

一 15,000 15,000

鳥津

水界合計參圓也

地層構造模型

一 13,000 13,000

同

(一) 機械器具類

地層説明用(模型)

一 13,000 13,000

同

雨量計

1,800 1,800

斷層ノ成因ヲ示ス模型

一 15,000 15,000

同

アネロイド山岳晴雨計

4,000 4,000

小形地質模型

一 10,000 10,000

同

最高低寒暖計

6,000 6,000

(八個一組)

一 10,000 10,000

同

ガニエル氏濕度計

2,000 2,000

浸觸輪廻説明模型

一 10,000 10,000

同

風力計

1,500 1,500 ロビンソン式

(二個一組)

一 10,000 10,000

同

風力計用電氣盤

1,500 1,500

新舊地勢對照模型

一 15,000 15,000

同

水河

1,000 1,000 大阪集書堂

(三) 掛圖類

地殼ノ上昇下降圖

一 1,000 1,000

大阪集書堂

氣溫雨量

1,000 1,000 同

地震現象微動計

一 1,000 1,000

同

氣流ノ箱環

1,000 1,000 同

火山ノ種類及斷面圖

一 1,000 1,000

同

颶風龍卷

1,000 1,000 同

(其ノ他地形圖地質圖ハ地誌ノ部ニ計記セ

(其ノ他地誌ノ部ニ記セルモノヲ使用ス)

氣界百六拾七圓也

通論累計壹千八百八拾七圓參拾錢也

丙

以上ノ項目以外ノ教授資料、教師研究

生徒實習ニ關スル備品

(一) 讀圖資料

曲線圖式説明教 型教師用	1	13.000	13.000	學海指針社
生徒用	2	1.100	2.200	同
同	1	3.000	3.000	同
同	2	7.00	14.00	同
二十萬分ノ一 帝國圖々式	1	2.50	2.50	發地測量部
五萬分ノ一地形圖々式	1	1.30	1.30	同
地形圖々式説明 (二枚一組)	1	5.00	5.00	同
測圖記號 (二枚一組)	1	1.30	1.30	同
(二) 測量及製圖				
クリノメーター (手札形)	1	5.50	5.50	サツク入
ワイセル氏測高器	1	15.00	15.00	土屋
步數計	1	8.40	8.40	土屋
步測圖用具(一組)	1	8.00	8.00	土屋
プリズマチツク コンパス	1	10.50	10.50	玉屋 服部

プラニメーター 1 6.000 6.000 井上
カービメーター 5 4.000 20.000
方位尺 1 2.000 2.000 西村萬壽土屋
地圖模寫台 3 5.000 15.000
比例コンパス 2 4.000 8.000
大定規及コンパス (一組) 1 6.000 6.000

(一組)

大分度器 1 2.000 2.000 土屋
ペンタグラフ 1 10.000 10.000
ハンドレベル 1 25.000 25.000 玉屋其ノ他
製圖器械(一組) 1 7.000 7.000

(三) 地理資料蒐集雨具

ハンマ (大) 1 4.000 4.000
同 (小) 10 2.500 25.000
タガネ 1 5.00 5.00
ハンマサツク 1 2.000 2.000
岩石採集靴 1 9.000 9.000
岩石用眼鏡 1 15.000 15.000 舶來ニテ二十倍ノモノ
條痕板 1 2.500 2.500
圖鏝 1 5.000 5.000

丁

内 累計參百參拾貳圓六拾壹錢也
標具室 (研究實習兼用) 設備

廣サ、幅四間 長サ五間

一間戸棚

曳出付陳列台

地理地質模型塗板地圖入

地圖掛

地圖立

教師研究用テ

アル曳出付

教師用 小箱

生徒研究用テ

生徒用腰掛

地圖表裝

繪具、繪具皿、繪筆、筆洗其他

標具室合計壹千參百貳拾九圓也

戊 教室設備

廣サ縦五間半、横五間 (横ヲ五間ニスルニハ普通ノ校舍ニ於チハ一方ノ端ニトリ廊下ヲツナス)

生徒用机ハ二人用トシ椅子ハ一人用トス

廣サ縦五間半、横五間 (横ヲ五間ニスルニハ普通ノ校舍ニ於チハ一方ノ端ニトリ廊下ヲツナス)

生徒用机ハ二人用トシ椅子ハ一人用トス

陳列台

地圖掛

(後全部前ノ兩隅)

平均 10,000 10,000

地圖掛兼揭示用衝立

塗板地圖

地理模型掛

教壇

教卓

教具置台

幻燈器械

幻燈器機台

暗室裝置一切

白晝射影用暗箱

標具室合計壹千參百貳拾九圓也

總計七千八百八拾圓七拾五錢

中等學校地理科設備最低標準案附錄

(地質時代ヲ代表スル岩石類蒐集案内)

(一) 始原層

灰色壓碎花崗岩 平安北道宜川郡宜川(驛)附近

角閃片麻岩 京畿道富川郡桂南面梧柳洞(驛)附近

黑雲母花崗片麻岩 忠清北道水同郡黃洞ノ南東(驛)

同 上 京城府南山

(二) 三波川層

絹雲母片岩 群馬縣多野郡三波川村

絹雲母片岩 群馬縣多野郡三波川村

絹雲母片岩 群馬縣多野郡三波川村

實物並ニ幻燈射影兩用ノモ

同 上 德島縣三好郡大崩嶺
 同 上 群馬縣多野郡三波川村
 同 上 埼玉縣秩父郡皆野
 同 上 德島縣德島市大瀧山
 同 上 群馬縣多野郡三波川村
 同 上 德島三好郡山城谷及ビ船形
 同 上 長崎縣西彼杵郡三重
 同 上 埼玉縣秩父郡野上及樋口
 同 上 德島縣三好郡山城谷村
 同 上 高知縣長岡郡西豐永村
 同 上 本山町
 其ノ他紀ノ川南岸、和歌浦附近ノ結晶片岩等
 (三) 古 生 層
 輝 岩 三重縣度會郡山田
 輝綠凝灰岩 群馬縣多野郡小平及ビ保美濃、柏木
 同 上 埼玉縣秩父郡馬上
 同 上 熊本縣球磨郡幸野
 同 上 京都府葛野郡嵐山附近
 硬砂岩 群馬縣南甘樂郡神ヶ原
 同 上 埼玉縣秩父郡荒川
 角岩 群馬縣多野郡平原
 同 上 宮崎縣東臼杵郡日平嶺山
 粘板岩 群馬縣多野郡黒田
 石灰岩

雜 報

同 上 山口縣阿武郡櫻郷嶺山附近
 同 上 岐阜縣不破郡赤坂町金山附近
 同 上 滋賀縣伊吹山陣屋山等
 同 上 岐阜不破郡赤坂町金山山附近
 同 上 シュロゲリナ石灰岩
 同 上 ネオシュロゲリ石灰石
 (四) 中 生 層
 頁岩 宮城縣牡鹿郡稻井
 同 上 東京府西多摩郡五日市
 同 上 和歌山縣有田郡廣村
 同 上 同縣海草郡加太町及附近
 砂岩 兵庫縣三原郡湊
 同 上 德島縣板野郡撫養町
 同 上 東京府西多摩郡五日市
 同 上 其ノ他和泉山脈讃岐山脈等
 同 上 鳥ノ巢石灰岩 高知縣高岡郡佐川町鳥ノ巢
 同 上 東京府西多摩郡五日市
 同 上 トリゴニア砂岩 高知縣高岡郡越智町
 同 上 トリゴニア 同縣長岡郡久禮田村領石
 植物化石ヲ含ム砂石頁岩類 同 上
 同 上 ガオネラサカワナ 同縣高岡郡佐川町上郷ノ藏法院
 同 上 プホードモノチス 櫻谷及ビ赤土峠ノ麓
 同 上 イノセラムス 北海道膽振國湧拂郡シュウバリ

同	上	兵庫縣三原郡湊及長田
アンモナイト		高知縣高岡郡佐川町
礫	岩	和歌山縣高野附近ノ和泉砂岩中ノモノ
同	上	千葉縣銚子大吠岬附近
	(五)	第三紀層
凝灰	岩	神奈川縣足柄下郡湯本村附近
同	上	東京府小笠原島母島
同	上	千葉縣安房郡上小原
同	上	兵庫縣城崎郡港村氣結附近
砂	岩	富山縣射水郡澁谷
礫	岩	磐城炭田ノ礫岩(堅クテ保存ニ都合ヨシ)
頁岩	岩	本縣産
貨幣石	炭岩	東京府小笠原島母島
其ノ他		本縣産各種

質疑應答

【問】 スミルナ産の櫛櫛(ヴァロネ) (大阪 I 生)

【答】 ヴァロネは亞細亞トルコを中心にして生長する櫛の一種から採取せらるゝ闊栗の帯である。此櫛は主にアナトリアのメアンドル河流域からマルモラ海の沿岸、北はタルダネルスから南はスミルナの南海岸地方の森林にできる。實は胡桃櫛のドングリと松子様の帯から成り、熟すると帯が破れて中の

胡桃は自然に落ちる。商品として有用なのはこの帯である。この帯の先端につく所の片鱗はよく脱落するが、この部分は實は單寧の含有量が豊富である。

タンニン鞣の原料として、ヴァロネが珍重さるゝ理由は、其含有量が他の樹皮果實の何よりも多いこと、良質であつて上等の皮、特に小兒靴、上等手袋の羊皮のナメシに適するからである。甘く所理すると皮革が軟柔ピロッドのやうになるのである。

スミルナ附近は特にこの木に適し單寧分が平均三十七%に達する。他の地方のは三十%位である。スミルナが輸出中心地となる理由がこゝに存する。

收穫は例年八月に初り十月頃に終る、外部の餘り熟しきらぬ中にたゞき落し、水に一旦没した上で、天日乾燥を行ひ、袋につめて保存し必要に應じて輸出する、歐洲大戰前に毎年五萬五千噸乃至六萬噸位を出した。その後人民が燃料に木をきつたので減じたが、希臘軍侵入當時は一萬八千噸位になつた、大戰中輸出の途が杜絶したので、北米では化學合成品を以て代用したが、近年漸く復活して年額四、五萬噸になつた、凶作の年ほど輸出がふえる。近頃大阪方面に百五十噸ばかり輸入された。

ヴァロネから抽出した黄色の粉末をヴァレツクスといふ。單寧が六十四%になる、スミルナにはその製造所が三ヶ所もあつて、最大の工場では年々一萬二、三千噸の良質ヴァロネから五六千噸のヴァレツクスをつくるといふ。(藤田)